

夏の観光めぐり

「織田信長と吉乃」 ～戦国時代の恋物語～

* 吉乃御殿跡 *

小牧市堀の内1-1



信長は、心から愛した女性吉乃が病に伏したと耳にしました。翌日、病に伏した吉乃を療養させるために小牧山の新居へ呼び寄せたと言われています。

* 酒作所見学 *

江南市小折本町柳橋88 ☎0587-56-2138



江南市の水と酵母にこだわる酒蔵です。清須の工程を杜氏から説明していただきました。(試飲会・店頭販売有り)

* 生駒屋敷跡 *

江南市小折八反畑147



生駒屋敷で信長が、吉乃に一目惚れ。濃姫に内緒で愛を育んでいました。生駒家は、灰と油を商う商人として膨大な財をなし、その財力は信長の戦力として大いに発揮されたと言われています。

* 久昌寺 * 江南市田代町郷中51



側室の吉のが病死して、信長は涙を流したと言われています。信長は吉のを禅喜寺にまつりました。その戒名は「久庵桂昌大禅定尼」と号され、寺名は嫩桂(どんけい)山久昌寺と改められました。

* 経塚 * 江南市田代町西ノ丸



吉乃が茶毘に伏され、墓碑には観音像が彫られ、小牧山の方を眺めるようにたたずんでいます。墓碑の横には樹齢400年の彼岸桜(通称吉乃桜)がたたずんでいます。

* 宇都宮神社 * 小牧市小木3-226



信長の家臣でお守役の平手正秀は、幼名を「狛千代丸」といった自分の名にあやかり、信長の成長を祈願した自作の木製狛犬を奉納したと言われています。

昔ながらの「うなぎの寝床」形式の建築様式からなる水口亭は、江戸期、町費(現在の税金に相当)が間口に
応じて決められていたことから普及したといわれている建物です。

*** 神明社秋葉祭(宵山) *** 小牧市小牧5-153 ☎0568-76-1189(市役所文化振興課)

秋葉社

祭神は天昭大神で、永禄年間に織田信長が清洲から小牧山に城を移した際、清洲にあった御園神
明を守護神としてこの地に写し、駒木(こまき)神社と名づけたのが始まりと言われています。

毎年8月の第3土・日曜日に行われる秋葉祭は250年以上の伝統をもっており、旧小牧宿住人の防火の
願いを込めた祭として、江戸時代から今日まで続いています。(江戸時代には旧七月に行われていました。)

4台の山車(中町の唐子車・横町の聖王車・上之町の湯取車・下之町の西王母車)が、小牧市指定有形
民俗文化財(昭和57年7月27日指定)となっています。

～ 宵祭り(試楽)～

土曜日の夜の宵祭りでは、宵祭り用の幔幕と、明かりをつけた150個余りの提灯で山車を飾り、昔の小牧
宿の町通りを巡行し練り歩きます。道中には町内曳き廻し・どんてん(山車後輪を支点として車体を持ち上げ
回転させること)・からくり奉納などの神事が行なわれ、それぞれの場に応じて、笛・大太鼓・小太鼓・三味線
などを用いた十数曲もある祭り囃しが演奏されます。

～ 本祭り(本楽)～

夜行われる宵祭りに対し、本祭りでは昼用の幔幕・からくり人形で山車を飾り、屋根神様や祭元の前で
からくりを奉納しながら町内を曳き廻し秋葉社へ向かいます。秋葉社前にて、中町・横町・上之町・下之町の
順にからくりが奉納されます。

このようにして、天明年間(1781年～1788年)に始まり、寛政12年(1800年)祭本江崎又七記の『秋葉祭山
再興帳』にて再興された秋葉祭は、爾来二百有余年、伝統のある郷土色豊かな風情ある祭として、旧小牧
宿の町通りで毎年行われています。

